

1 構成員（5名）

- 座長 田中 伸治（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）
金田 有紀（相模鉄道株式会社経営企画部長兼総務人事部長）
菅原 保（公益財団法人神奈川県交通安全協会専務理事）
田川 晶士（一般社団法人神奈川県安全運転管理者会連合会専務理事）
福地 賢一（公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会事務局長兼専務理事）

2 会議開催状況

- 第1回 令和2年10月28日 交通事故情勢や交通安全の取組み等について
第2回 令和2年12月7日 第11次神奈川県交通安全計画（骨子案）について
第3回 令和3年3月26日 第11次神奈川県交通安全計画（素案）について

3 懇話会意見概要

(1) 第1回会議

- ・本県は二輪車乗車中の死者の割合が全国に比較して高く、さらなる対策が求められる。
- ・今後さらに増加していく高齢運転者への対策について、早期に取り組む必要がある。
- ・道路の路面標示が薄い箇所がある問題に関して、適切な維持管理について計画に盛り込むことが望まれる。
- ・バス停留所周辺の安全確保や歩道のない通学路についての対策が必要である。

(2) 第2回会議

- ・二輪車乗車中の死者の割合が高いことは本県特有の状況であり、全国の割合の2倍以上であるため、骨子案の「重視すべき視点」に県独自項目として二輪車に対する記載を入れることができないか。
- ・二輪車事故防止は、二輪車の運転者への対策が主体となっているが、加害者となりうる四輪車運転者への対策も大切だと考えられる。
- ・国の中間案では、道路交通の目標値として24時間死者数と重傷者数の両方が設定されたが、死者数と重傷者数に対する対策は同じものであり、また、目標値は単純な方が県民に分かりやすいため、本県は第10次計画と同様に死者数のみの設定がよいのではないか。

(3) 第3回会議

- ・二輪車乗車中の死者の割合が高い本県特有の状況を踏まえて、重視すべき視点に「二輪車の安全確保」が記載され、二輪車の特性を四輪車運転者に対しても広報啓発をするということは良いのではないか。
- ・施設の維持管理において、路面標示の摩耗等については、横断歩道に特化せず、それ以外の標示についても劣化しているものが見られるので、包括的な表現が良いのではないか。
- ・目標については、究極的な目標はゼロを目指すわけが、今後5年間の目標として130人というは妥当ではないか。